

平成 28 年度

学 校 評 価

< 記入上の留意点 >

評価 は教職員、評価 は校園長、評価 ・評価 は学校関係者評価委員の評価を記入する。

評価 は小数第一位まで記入する。評価 は4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価 はA B C Dで記入する。

学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

評価、評価 の基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 小 田 北 中 学 校

平成28年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本校の教育目標は、『一人ひとりを大切に生きる力を育む』と設定している。

具体的な取り組みは、(1)自分と他人を大切にする豊かな心を育てる。 (2)確かな学力を身につけさせる。

(3)良い生活習慣を身につけさせ、心身共に健康な生徒を育てる。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価 (教職員)	評価 (校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に年間授業時数を明示し意識付けを図り計画性が増した。 ・校内での公開授業を活発化するとともに授業改善アドバイザー等を積極的に利用し授業研究が進んだ。 ・校内研究授業等でICTを取り入れた授業を積極的に行っている。 ・水曜放課後、土曜、テスト前チャレンジ、月曜放課後EFSクラブでコンピューター室でのe-ライブラリーを使った自主学習を実施した。 ・家庭での学習時間増加に向けて、毎週週末課題を与え点検等の指導強化を図った。 ・数学、英語で少人数指導やTT授業により、生徒が存在感、充実感のある授業実践を心がける。英語の小中連携の道筋を作り、少しずつではあるが進んでいる。 ・特別支援委員会やケース会議で情報交換等を行い、職員会議等で全教職員の共通理解を図っているため生徒理解が進んだ。 ・小中で道徳や教科授業の相互参観、出前授業や夏季合同職員研修、小6児童の文化発表会の参観や部活動体験を行い中学校理解が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より一層の計画性のある授業を行うため意識の改革を図る必要がある。 ・授業公開やICT授業研究が少しずつ進んでいる。事後研究の方法等検討し授業力向上を目指す。 ・水曜放課後、土曜学習、放課後EFSクラブ等の補習に参加する生徒が少ないので希望制・指名制等を検討する。 ・少人数授業を実施しているが、点数としての向上が見られないのでより一層の工夫が必要、新学習担当で検討を進める。 ・小中連携は進んできたが、より一層の進化へは教育課程上の時間と教員のゆとり不足一考の必要有り。 ・小中2つの学校の授業での約束事等を調整する必要性がある。 ・特別支援コーディネーターと教育支援員を中心に通常学級で支援が必要な生徒の対応を細かくする必要がある。 ・能力差のある支援学級の授業の進め方を工夫する。 		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価 (教職員)	評価 (校長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりで満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.2	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に実施した、阪神地区道徳の発表を継続し進めていく。 ・年2回の教育相談を計画的に行い問題行動等の未然防止に役立っている。 ・生徒指導委員会、不登校委員会等の会議の統合を行うことにより生徒と関わる時間を増やす。又、情報を電子化して共通理解を図る。 ・長期、7日連続欠席者については、不登校担当やSC等との連携をいっそう深める。不登校気味の生徒保護者の管理職面談を行い改善に努めている。改善が見られた生徒も出てきた。 ・キャリア教育の年間計画を作成するとともに「進路ノート」の活用などを計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳について、教育活動全体で取り組むことと、週1回の道徳授業を大切に意識の高さを継続する必要がある。 ・教育相談時や日々のSCの利用促進と、情報交換をもっと密にする必要がある。 ・生徒指導や不登校の情報を電子化するが教員の習慣化が未成熟。行事ごとに不登校生徒への刺激を与え中学生としての体験をさせてやる方向で進めていく。 ・キャリア教育についての共通理解がまだ不足しているため、研修を実施していく。 		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.6	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・4月職員会議で食育全体計画、市の施策等を提示し説明することにより、職員への意識付けを図る。2年生の授業で食育授業を実施させることが出来た。 ・食育への関心を持たすため、家庭科での食育授業に授業の空いている教員を参観させ、少しは意識が高まった。 ・弁当事業実施について、教職員の共通理解を図る。又、給食実施に向けての情報を公開して教員の意識付けを図った。 ・教科体育の充実と体育的学校行事を全教員で取り組む。 ・スポーツテスト結果を生徒にカード等で還元し活用する。 ・部活動大会前の壮行会や外部指導者の活用により部活動をより一層活性化させたため所属感が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや食育の授業等で健康への関心が高まってはいるが、それをもっと学活等で浸透させる必要がある。 ・部活動数は増加し、部員も増加して活躍の場が増えたが顧問の関係で継続性が課題、外部指導だけに頼り切れない部分が出てきている。 ・スポーツテストを学校行事に位置づけて実施することが教員全体で生徒の体力向上意識に繋がる。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.3	3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の範囲を広げることにより、生徒の登校時の安全が少しずつは確保されている。 ・月末の安全点検実施により、危険箇所の把握を確実にを行うため事故の減少。 ・朝礼や集会、学活での安全指導を行うので生徒が理解し易い。 ・年2回の防災訓練実施の際、事前事後指導を充実することや関係機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が古いために、安全点検後の修理や修繕しなければならない箇所が校務員等が出来ない場合の処置に時間がかかる。 ・安全指導に関しては、教員の指導が出来るときは、良いのだがなかなか浸透していかない。通学路の自動車等の規制や通学路をわかる様にしていく必要がある。 ・関係機関と協力すべき学校行事では、日程調整が難しい。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委での研修計画を立案することで意識が高まった。 ・ICT使用でより一層業務改善をする。 ・教育雑誌や教育施策に関する情報等を文書で職員に通知することで既成概念や改革意識を高める事が出来てきた。 ・若手教員の増加により、若手教員校内研修計画を実施することで若手登用に備える。 ・個別面談を年間2回以上行うことで意識改革を少しずつではあるが、図れてきている。 ・教育活動の公開や学級、学年、学校の発行、ホームページ更新、PTAメール配信を更に活発にしたのでより保護者との連携が出来た。 ・管理職が地域行事に数多く参加しているので、連携や協力体制は取れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修、研究は若手教員中心となっており、ミドルリーダーとの連携をとらせる必要がある。 ・個々のICT使用は普及してきたが、校務ファイルの整理が出来ていない。 ・個別面談で、若手登用を図ろうとするが若手にその意欲や意識が薄いのでことある毎に話しをしていく。 ・便りやHP更新は昨年度同様に活発だが、継続していくのが課題。 ・地域の人材活用と地域との協力体制作りは、教員の意識改革が必要。 ・今後は管理職だけでなく主幹教諭等が地域の行事に参加し、連携を深めるようにしていく。 	

教育目標		評価 (教職員)	評価 (校園長)
			3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼等の機会を通じて、職員や生徒に具体的目標の意識付けを図る。 ・学校、学年たよりや保護者会など機会あるごとに教育目標、目指す生徒像を示したため問題行動が減少している。 ・指導の充実には、振り返りと改善が必要である。常に、指導後の改善策を考慮するように啓発する。行事ごとの反省を基に次年度計画までの対応を進める意識が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーの育成や若手教員の意欲意識改革により新しい動きを作っていく必要がある。 ・学年、学校たより、保健だよりの発行の継続が課題。 ・教職員の共通理解は進んできたと思うが、全職員チームとなって保護者を巻き込んだ形で教育活動をしていきたい。 ・教職員の役割を明確にし、今後も長期展望に基づく適材適所で担当を決めていく必要がある。 		

研究テーマ		評価 (教職員)	評価 (校園長)
			2.9
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を軸に、共通理解や方策を検討し発表するので意識は高まった。 ・自ら学ぶ意欲を持たせるために分かりやすい授業や指導法の工夫をテーマに授業実践し、校内で公開授業を行ったため意識が少し高まった。 ・学力調査やアンケートの分析から課題を見つけるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究、研修は若手教員とミドルリーダーの間で共有していく必要がある。 ・研究を推進する強力なミドルリーダーを作っていく必要性がある。 ・学力調査やアンケート分析から、見通しと振り返りのある効果的指導案を検討していく。 		

		評価 (教職員)	評価 (校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

評価の基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>日々の授業については、時間を守り充実した授業がされている。研究授業等授業公開をするなど、授業工夫を行い学力向上に取り組んでいる。1学期より2学期と学期を重ねる毎に少しずつではあるが、向上が見られる。今後も期待出来ると思える。週末課題を与えて家庭学習の習慣に取り組んでいるが、それを定着させるため家庭の協力が必要である。今後も意欲を高める指導をしてほしい。</p>	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>様々な行事の中で、生徒も教師も誠実に取り組んでいた。多くの取り組みを行い、こころの教育を心がけている。保護者の参加がもたしいところである。PTAとの連携をもう少し考える必要があると思える。不登校生徒への取り組みも校長との面談も全員行い、働きかけが良かったと思う。不安定な家庭について、関係機関との連携が必要である。</p>	3.5
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>保健だより等での啓発活動や、保健体育の授業での取り組み、部活動への取り組み等良くやっている。部活動への参加率がとても高い、小規模校としては、部活動数が多いので継続ができるか心配である。</p>	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>安全点検を確実にし、エアコンの設置や体育館の整備等できる限りの環境整備ができています。防災訓練も年2回実施し、防災意識の高揚に努めている</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>学校たより・学校ホームページ・連絡メール等学校情報を多く公開している。また、地域の行事へも管理職・生徒の参加も良くやっている。オープンスクールや体育大会・文化発表会等保護者地域の方の参加も非常に多い。</p>	4
<p>教育目標 『一人ひとりを大切に、生きる力を育む』</p> <p>目標設定を明確にし、教職員が一丸となって進めている。一人ひとり丁寧に対応ができていように思う。学校たよりやホームページで公表はしているが、保護者への広報がもっと必要である。</p>	3
<p>研究テーマ 『ICTを活用し、学び合い・支え合い・高め合う授業づくり』</p> <p>授業工夫はしているのだが、研究テーマをもっと前面に出して進めていった方が良い。2年間のタブレットでの取り組み等良くやっていたと思う。</p>	3
<p>小中連携</p> <p>数多く中学校から小学校訪問を行い小中の連携を進めている。小中の足並みを揃える必要がある。今後期待が持てる。(英語・体育の連携が進めていっている)</p>	3.5
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

集計表

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.2
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	3.6
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3.3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3.5
教育目標	3.5
研究テーマ	2.9
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	3.5
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	3.5
教育目標	3
研究テーマ	3
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	3.5
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	4
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	4
教育目標	3
研究テーマ	3
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B